



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース70号

## 大森ふるさとの浜辺で会える生き物たち

大森 海苔のふるさと館の近くには人工の砂浜があります。「大森ふるさとの浜辺公園(以下、ふる浜)」の海には一体どのような生き物がいるのでしょうか。当館で開催しているイベントで見つけた生き物たちをご紹介します!

### 【生き物たちが暮らすふる浜はどんな環境?】

ふる浜は2007年に造られた、人工の砂浜です。東京湾に面していますが、昭和島や京浜島などの埋立地、高速道路、モノレールなど多くの人工物に囲まれています。また、多摩川に続く支流もつながっており、海水と淡水が混ざり合う「汽水」域になっています。海にいる生き物も、川にいる生き物もどちらも姿を現すことがあります。砂浜から続く浅瀬には魚やエビ、それらをエサにする鳥たちなどが集まり、季節によって様々な生き物を見ることが出来ます。

### 【生き物を採る道具「投網」!】



夏休みの人気イベント「浜辺の生き物探検隊」では、魚を捕まえるために「投網」を使用します。網を丸く広げるように投げて、魚を捕獲する

方法です。一般的には漁業で使用される投網ですが、海苔のふるさと館では特別な許可を得て投げて

います。きれいに広がるように投げるにはコツが必要で、イベントで上手に投げられるように6月中旬から8月末にかけて毎週1回、ふる浜で練習をしています。



ボラが群れで捕まった

### 【ふる浜で見つかる生き物たち】

ふる浜にはたくさんの生き物が生息しています。ここでは、投網で採れる生き物をご紹介します。

『ボラ』…ふる浜の海面でよくジャンプしている魚です。80cm以上にもなる大型の魚で、ほぼ全世界の熱帯・亜熱帯域に分布しています。成長の段階で名前が変わる“出世魚”で、関東では若い順にオボコ・



イナッコ・スバシリ・イナ・ボラ・トドと呼ばれています。投網で採れるのはスバシリ・イナほどのサイズで、まれに40cmほどのボラが入るときもあります。

ボラは水の汚染にも強いので、都市部でもよく見られます。もとは海水魚ですが汽水～淡水域にも群れで遡上し、岩についた藻類などを食べています。高級珍味のカラスミは、ボラの卵巣を塩漬けにしたものです。

『マハゼ』…江戸前の代表的な魚として有名です。近年では数が激減してしまいましたが、ふる浜では波打ち際でよく見られる魚です。



大きいもので15cm程度までなりますが、まれに20cm以上に成長することもあります。ふる浜ではビリンゴと混同されますが、マハゼの背ビレや尾ビレには矢羽状のきれいな模様が見られることが特徴です。ふる浜の磯場や見晴らし橋の近くではハゼ釣りをしている人をよく見かけます。

『ビリンゴ』…マハゼと同じようにふる浜の波打ち際でよく見られます。マハゼによく似ていますが、5cm程度でも立派な大人の魚です。ビリンゴは第一背ビレ



に黒い縁があるのでマハゼと区別ができます。ハゼの仲間ですが、海底にピッタリくっついていたりよりは海底より少し上で浮いて過ごしていることが多いです。

『クロダイ』…釣ってよし、食べてよしの人気の魚です。チヌと呼ばれることもあり、50cm程度に成長します。ふる浜で泳いでいる姿を見つけるのは難し

いですが、投網では稚魚～幼魚あたりの3～10cmほどのものが採れます。小さいうちは黒いヨコシマがはっきり見えるのが特徴です。大きいものは内川の河口で、橋の上から見つけることができます。成長するのに時間がかかる魚で、約30cm以上になるとオスからメスに性が変わる「性転換」をします。



『キチヌ』…クロダイにとってもそっくりですが、腹ビレ・臀ビレ・尾ビレの下方が黄色くなっているのが特徴です。関西では、ヒレが黄色いことから「キビレ」と呼ばれることもあります。クロダイと同じように泳いでいる姿は見つけにくいですが、投網では10cm前後の幼魚が採れます。クロダイとキチヌは、あまり数は採れませんが毎年出会える魚です。

『キチヌ』…クロダイにとってもそっくりですが、腹ビレ・臀ビレ・尾ビレの下方が黄色くなっているのが特徴です。関西では、ヒレが黄色いことから「キビレ」と呼ばれることもあります。クロダイと同じように泳いでいる姿は見つけにくいですが、投網では10cm前後の幼魚が採れます。クロダイとキチヌは、あまり数は採れませんが毎年出会える魚です。



『スズキ』…ボラと同様、成長段階で名前が変わる“出世魚”で、若いうちから順にヒカリゴ・コッパ・セイゴ・フッコ・スズキと呼ばれます。大きいものでは1m以上に成長し、シー

バス釣りでもとても人気がある魚です。大きいものは内川の橋の上から見つけることができます。投網では10cm前後ぐらいのものが採れます。高級魚として有名で、カルパッチョやムニエルなどお店でもよく提供されています。

**【どんな生き物に出会えるかは運しだい！】**

投網の練習は夏の時期だけですが、この3ヶ月だけでも海の様子は着実に変化します。6月中旬頃には小さいボラばかりだったのが、8月になると成長して大きくなっていたり、6月には採れていたクロダイやスズキが8月には採れなくなったり。季節の移り変わりを実感できます。また、降雨の後や猛暑の日などはあまり魚に遭遇できないことが多く、朝は見かけたのに夕方にはすっかりいなくなっていることもあります。さらには潮の干満によって、満潮に近づくと海の魚が採れたり、干潮に近づくと川の魚が採れたり。天候や時間帯、潮の動きによって出会える魚は変わります。どんな生き物に出会えるかはその日の運しだいです！みなさんもぜひ、ふる浜に行っているいろんな生き物を探してみてください♪

こんな生き物が採れたよ！という報告やこれは何？という質問など、お待ちしております！

(滝本)



**新職員ごあいさつ**



**小嶋 卓斗**

大学では明治以降の日本近代史を専攻し、学芸員となるべく勉強してきました。

音楽が好きで音楽鑑賞とバイオリン演奏が趣味です。

大森での海苔養殖の歴史やその道具について学び海苔つけの技術を身に付けて、それらを多くの人々に伝えていきたいと思っています。

まだまだ沢山学ぶことがありますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。

**企画展開催中**



大森ふるさとの浜辺では、10年以上に渡って、モニタリンググループによる水質や生き物の調査が行われてきました。長年の調査によって分かってきたことをご紹介します。子ども向けのパネル、海の生き物の写真、クイズなど、親子でも楽しめる展示になっています。

ぜひ、東京湾の浅瀬の豊かさを感じ取り、実際に大森ふるさとの浜辺へ遊びに行ってみてください。

なお、企画展開催に当たりまして、東海大学、東京海洋大学、五洋建設株式会社様にご協力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。（五十嵐）

**特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」70号**

令和元年8月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区  
平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333  
FAX 03-5471-0347



**海苔のふるさと会 会員募集中!!**

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。